みらいつうしん

5月号

２０２１年５月１日
田園調布学園大学
みらいこども園
園長　勝浦芳子

☆子どもの気持ち☆

澄みきった青空を爽やかな風に誘われて鯉のぼりが、気持ちよさそうに泳いでいます。子ども達も、園の鯉のぼりを指さして、「わ～大きいね。」「カッコいいね～。」と声を上げ、青空にたなびく様子を楽しんでいます。鯉のぼりは、「黄河の急流に竜門と呼ばれる滝があり、その滝を登ろうと多くの魚が試みたものの登れたのは鯉だけで、登り切った鯉は竜になった。」という中国の故事が元になっており、また、鯉は、清流に限らず環境が良いと言えない池や沼でも生きていける生命力の強い魚ということで、特に男の子が、様々な困難に打ち勝って、大成する立身出世の象徴として端午の節句に飾られます。現在では、男女関係なく、子どもの成長を祝い、竜は天の神様と伝われていることから、神様が皆のところに来て貰えるための目印として飾られているとも言われています。みらいこども園の子ども達も天の神様に見守られ、逞しく育って欲しいと願います。

さて、入園・進級してから、１ヶ月余りが経ちました。新入園児は、当初、保護者の方と離れる際に、不安の気持ちから、涙が出てしまうお子さんや上のお子さんを探して安堵を求めるお子さん、気に入った保育者にしがみついて何とか自分の気持ちを紛らわすお子さんなど、タイプは様々ですが、自分のよりどころを必死に探している光景が見られました。その一方、在園児の遊びに興味津々の様子で、日に日に楽しみを探しては、笑顔が増えてきました。給食も、好き嫌いはあるものの、みんなで一緒に食べるという環境に少しずつ慣れ、「全部食べたよ」「美味しい！おかわり」というお子さんもいて、とても嬉しく思います。また、在園児の様子を見てみますと、自分の遊びの中で、一歩譲ったり、困っている子のお世話をしたりという姿も見られ成長を感じます。それぞれが、新しい環境の中で、心地よい居場所を見つけて、園庭や保育室で、保育者や気の合う友達と少しずつ園生活を楽しみ始めています。泣いたり駄々をこねたりすることは、決して悪いことではありません。一生懸命「私を見て、なんとかして」と自己表現をしているわけですので、先ずは、「子どもの気持ちに立って」を合言葉に、一日一日と新しい園生活に慣れ、好きな遊びを見つけてお友達や先生と楽しく過ごせるように職員一同心配りしながら保育環境を整えていきたいと思います。そして、集団生活の中で、人と関わることで、自分の気持ちが落ち着いてきた時、ルールや、人の行動を見て、良し悪しを理解していきますので一人一人のペースに合わせて見守っていきたいと思います。

おわりに、前号でも申しました『挨拶』の件です。保護者の方々も朝のご挨拶を気持ちよくしていただきありがとうございます。お子さんも少しずつですが、挨拶をするようになりました。お互いのコミュニケーションをよくするためにも、「継続は力なり」といいますので、引き続き大人が見本を見せ、お子さんが出来たらほめて自信をつけさせてあげましょう。どうぞよろしくお願いいたします。

にじ組の
鯉のぼり製作